



モノストック

空き家活用サイクルの中から生まれた、
「モノ」にまつわる新たな好循環が動き始める。



連載1 最近のKAIR
(神山アーティスト・イン・レジデンス)



<寄井長屋西>ウィンドウギャラリー、展示作品を入れ替えました!

2020年秋にお披露目となった寄井のウィンドウギャラリーですが、ひっそりと展示作品が入れ替わっています!2月からは、2009年KAIR招聘作家・スベトラーナ・ガーボヴァ(ロシア)による作品がご覧いただけます。町内では、約11年振りの展示となります。<日本の詩情 Poem About Japan>と題された絵画は、彼女が初めて日本、そして神山を訪れて気づいた景色、目を奪われた美しさを感じたままに表現した作品です。新しい環境に身を置く自分として、自画像も配置されています。道路の反対側の少し離れた位置から見ていただくと、商店街の一部として作品が置かれている風景が見えます。週末のみ、夜間のライトアップも行う予定です。暮色の中に光る絵、暗闇に浮かび上がる光は、日中とはまた違った表情を見せてくれますので、帰り道や散歩のルートとして、ぜひ寄井商店街を通ってみてください。ウィンドウギャラリーは寄井商店街の生活に馴染む、日々の中でアートを身近に感じる場所として、365日ガラス越しに開かれている空間です。これから少しずつ変わっていきますので、どうぞお楽しみに!



スベトラーナ・ガーボヴァ 《日本の詩情 Poem About Japan》2009
作品サイズ:226 x 100cm材料:アクリル、キャンバス

連載2 ほんのひろば

徳島の情報誌『めぐる、』3号に載りました!

ゲリラ通信の取材をしていただき、徳島の情報誌『めぐる、』3号で紹介いただきました。ゲリラ通信とは「ペンネームまたは匿名」で誰でも「自由」に書くことのできるフリーペーパーで、書くことを励ますことで読むことを励ますという意図があります。毎月、ほんのひろばが「**豆ちよ焙煎所**」さんとタグを組んで行う「**コーヒーとほんのひろば**」というイベントで編集委員会をしていて、自由ゆえに毎回何が飛び出すか全くわからないというパンクなペーパーです。『めぐる、』の裏表紙には非常にレアな「つなぎ合わせる前の原稿の写真」も掲載されていますのでチェックしてください。『めぐる、』は全国どこからでも通販で買うことができます。(https://meguru2020.thebase.in/)ゲリラ通信は「ほんのひろば」に置いてありますのでどうぞご覧ください。



連載3 GVメンバーリレー

工藤 桂子 (神山アーティスト・イン・レジデンス担当)

私がグリーンバレーの面接を受けるため、初めてグリーンバレーの事務所のある神領まで来たのも、ちょうど14年前の今頃でした。その時には気づかなかった、梅の花の香りが町のあちこちから漂い始め、暖かくなったかと思えば、冷え込む日が戻ってきたり、今年は、久しぶりに雪の日も続いたり。アート作品の点在する大栗山にはいつもとは違う雪に包まれたアートウォークが現れました。ただ、作品までのアクセスは車では難しいので、徒歩のみとなり、銀世界でのアートウォークを楽しむには、滑らない靴と、暖かい服、いつもよりちょっと多めに歩く覚悟が必要に。四季折々の自然の中で楽しむアートウォーク。冬のキーンと冷えた空気の中、作品鑑賞ながらの散策もお勧めです。今年の雪は今日(2/18)が最後かもしれないので、雪の中でのアートウォークはまた来年!



表紙
「蟄虫啓戸」
撮影：生津勝隆

春霞のなか、梅が見頃を迎える阿川の景色。古くから梅の栽培が盛んだった神山の、原風景が広がっていた。



神山のサポートについて
グリーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。私達の活動趣旨にご賛同いただき、暖かいご支援をぜひお願いいたします。詳しくは以下のページをご覧ください。
<https://www.in-kamiyama.jp/donation-to-greenvalley>

発行/お問い合わせ
認定特定非営利活動法人グリーンバレー
<https://www.in-kamiyama.jp/np-gv/>
MAIL: greenvalley@in-kamiyama.jp
〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132
TEL: 088-676-1178
(編集: ニイチトセ)



認定NPOグリーンバレーに携わる人たちの想いを伝えるニューズペーパー「グリーンバレージャーナル」
GREENVALLEY JOURNAL
March 2021 vol.13



空き家片付けとそこから始まるモノの循環のしくみ

空き家片付けとそこから始まるモノの循環のしくみ ～「モノストック」は令和の「アドプト・ア・ハイウェイ」?～

町からの事業委託を受けGVが運営する神山町移住交流支援センター（以下センター）では、空き家紹介、契約コーディネーター、空き家片付け・改修の相談、移住後のフォローなど神山への移住に必要なすべてのサポートをおこなっています。実はGVは、よくある「移住フェア」と呼ばれるものに参加したことがありません。地方での暮らしに興味があって移住フェアに参加される方を神山に勧誘する外向きの活動よりも、実際に神山まで足を運んでくれた方が神山生活を楽しめるようになるための内側のサポートに焦点を絞っているのです。

空き家片付けサポート

移住者の入居が決まった空き家を片付ける。まだまだ神山への移住者が少なかった頃から続いているGVの取り組みです。空き家所有者さんの片付け負担を軽減するだけでなく、今まさに神山暮らしを始めようとする方のスムーズな移住をお手伝いします。

■空き家片付けサポートの効能

空き家片付けは現在、センター運営担当の伊藤友宏、林大晟（たいせい）、他のGVスタッフに加えて、神山町の分別ルールを熟知しているアルバイト数名で行っています。地味できつくて疲れる業務ですが、神山に新しい仲間を迎える準備ができることに誇りをもっています。

GVが片付けをお手伝いすることで、「貸してあげたいけど荷物の片付けが億劫」という大家さんの貸し出しに対する心理的ハードルが大きく下がり、その結果、休眠している空き家が生き返るのをそっと後押しできるのです。

民間の不用品回収業者と大きく異なるのは、費用面です。町のごみ収集の制度を最大限活用することで必要経費を抑えており、現時点では、空き家所有者さんにも入居者にも費用の負担がないのが大きな特徴です。

■空き家片付け作業の流れ

①片付け前の打ち合わせ



片付け前の様子。いろんな物で溢れています。

空き家の家主さんに捨ててほしくないモノが残っていないかの確認してもらいます。次に入居者が再利用したいものを確認してもらいます。家の中をパッと見ただけで片付けにかかる日数が大体分かります。田舎なのでお家が大きい家が多く、母屋だけでなく、納屋や蔵も片付けます。

②分別作業



それぞれの持ち場で作業に没頭。怪我する可能性あるときや、2人以上で物を運ぶときは必ず声を掛け合います。

ひと部屋ずつ、町のごみ分別ルールに沿って分別しながらごみ袋に詰めていきます。アルバイトの方にも手伝ってもらい2、3日で終わらせます。汗とホコリまみれになるのは当たり前。マスクは必須です。特に真夏の作業は冷房がなくしんどいですが、空き家がきれいになるのを支えに頑張ります。モノストックに保管する「モノ」は捨てずに置いておきます。分別後は、ごみの種類や分量に応じてごみ収集車を依頼します。

③収集作業



ごみ収集の職員の方と一緒に手際よく積み込んでいきます。

町のごみ収集トラックに家の前まで来てもらいます。タンスや本棚など大きな家具も運び出しトラックに載せます。1軒の空き家でトラック5台になることも。人が大量の物に囲まれて生活していることを思い知らされます。

多くの移住者を惹きつけ、地方創生の成功事例と呼ばれる徳島県の神山町。これまで「認定NPO法人グリーンバレー（GV）」では神山町移住交流支援センターの運営を通じて多くの皆さんの「神山移住」をサポートしてきました。今号では、目立たないけれど大切な業務の一つ「空き家片付けサポート」と、空き家から出たモノを循環させる「モノストック」の取り組みに迫ります。

④片付け完了



片付けが終わると家の中がかなり広くなった気がします。

モノがなくなると綺麗サッパリ。入居の見通しが立ってきます。必要に応じて改修すれば入居完了です！

モノストック

センターではこうした空き家から出てきたモノを保管している倉庫も運営しています。空き家片付けサポート中に生まれたその倉庫と、倉庫で繰り上げられる取り組みが、通称「モノストック」です。2020年に始まったこの新たな活動は、徐々に神山町内で知られるようになりました。まだまだ発展途上のこのモノストックの全容をお伝えします。

■「もったいない」からの誕生

以前から空き家から出てきた使えそうなモノは、その時必要とされている方へ譲っていました。例えば、家具や家電は神山で新たに生活を始める方に融通したり、KAIR（アーティスト・イン・レジデンス）で神山に滞在しているアーティストに作品の素材として使ってもらったり。それでも再利用できるのはごくわずか。「もったいないなあ」と思いつつも、置き場がないため仕方なく多くをごみとして処分していました。

そういった期間が10年以上続いた後、ある時、空き家の相談をくれた方から「倉庫もあるので、家とは別に倉庫も貸してもいいよ。」とってもらいました。それならば有り難くお借りして、置き場がなくごみとして捨てるしかなかったモノを倉庫に保管していこう。これが「モノストック」の始まりです。

倉庫があることで、タンスや建具、畳など保管に場所を取るようなモノでも捨てずに取っておくことができ、次の引き取り手が現れるまで待つことができます。倉庫を借りて半年ほど経ってモノがたまってきたのに加えて、倉庫のある神領の青井夫（あおいぶ）地区の方々のご協力とご好意により、集会所の駐車スペースを利用させてもらえるようになりました。「せっかくだし倉庫の中を見てもらえる機会を作ろう」と2020年6月に初めての「オープンデー」を開催。その後は月に1度、神山町民・在勤者を対象に開放しています。手探りで始めたオープンデーは気づくとすでに8回目（2021年2月時点）。毎回20～30名の方にお越しいただいております。



モノストック倉庫。無機質な外観が逆にクール？

■モノストックにおくモノ

あくまでも空き家片付けで出たモノのみを保管しています。ですでの不用品などの持ち込みはお断りしています。空き家片付けの業務中は、できるだけ作業を早く終わらせることを意識しています。この片付け作業の結果としてのモノストックですので、残すか捨てるかは自分たちのセンス。瞬時に判断を下します。これまで対応してきた移住サポートで蓄積した経験から「これを残しておくあの人が喜んでくれるかもしれない」「あの人なら上手く再利用してくれるかもしれない」と、具体的な受け取り手が目に浮かび、脳内マッチングされます。

例えば、神山の風景が写っている白黒写真などは、町内で写真のデジタルアーカイブの仕事をしている方へ、着物の端切れや衣類などは、衣服のオーダーやお直しをしてされている方へ。また、神山に移住して来られる方は、古いモノが好きな方が多いので、職人さんがもういなくて作れないような農具や和樽など、一昔前は日常の一部だった生活道具も捨てずに置くようにしています。中には伊藤、林ともに判断に迷うモノがあります。それらは「オープンデーで見てもらって意見をきこうか」と軽い感じで残すこともしばしば。また、片付けと一緒にやっている仲間も、「これモノストックに置いたらええんちゃう？」と自発的に考えて、コンセプトに合いそうなモノを残してくれるようになってきました。

倉庫内では、ざっくりとモノを以下のように分類しています。

①家電類	冷蔵庫、洗濯機、レンジなど
②家具類	机、椅子、棚、タンス、ベッド、食器など
③リノベーション類	建具、畳、洗面台、洋式トイレなど
④DIYグッズ類	ガラス、木材、釘、何かパーツになりそうなモノ
⑤古道具、農具類	火鉢や羽釜などの昔の生活用品、古い手道具、古い農具など

普通のリサイクルショップだと、高く売れる物を選別したり、きれいに拭いたり、陳列を考えたりします。よりよい商売にするためには必要なステップです。が、モノストックでは、最小限の分類だけを行い、基本的

■神山のものづくり職人さんに注目！



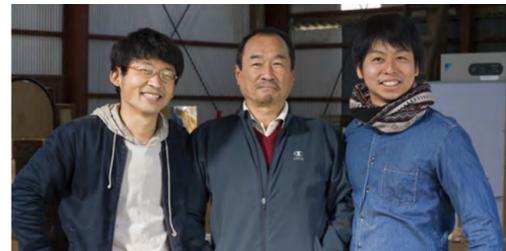
神山のものづくり職人さんの端材ブース。布コーナー（左）、杉材コーナー（右上）、革コーナー（右下）

オープンデーの日には、倉庫の一角に、町内のものづくり職人さんのブースも登場します。製作過程で出た端材をご厚意で置いてもらってます。例えば、オーダメイド靴屋の「LICHT」(リヒトリヒト)金澤光記さんは、靴作りの過程で出た革の端切れを、衣服のオーダー・手直しをされている「Gre:EN」の藤本直紀さんは、使わなくなった布材や道具や手芸本を、フォトグラファーで曲げわっぱ作家の近藤奈央さんは、曲げわっぱの製作過程で出た杉材を提供してくださっています。こちらも皆さんカンパ制。職人さんが使う素材をお気軽に手に入れることができるので、「自分も何か作ってみたい!」というきっかけになれば嬉しいのです。神山のものづくり職人さんを知ってもらう機会にもなっています。

■「モノストック」のこれから

「モノストック、いい取り組みやね」といろんな方に言ってもらえるようになりました。まだまだ進化の可能性を秘めています。いただいた寄付で、建具を収納する棚を作ったり、倉庫内を2階建てにしたりする案があります。また、モノストックを介さずとも町民同士が直接不用品をやり取りできるようにするフリマアプリを作る構想もあります。ゆくゆくは、モノストックにあるもので新たな価値を生み出すアップサイクルワークショップができれば楽しいかと妄想しています。

特別に「SDGs」と謳わなくても、昔から根付くグリーンバレー・ウェイ（ものの考え方）のひとつ、「創造的過疎」による持続可能な地域づくりがベースとなる「モノストック」は、「令和生まれのアドプト・ア・ハイウェイ」。「モノストック」活動を継続していけば、地球環境への負荷を軽減させる持続可能な町づくりの一助となることを実感しています。これからもワクワクしながら神山町移住交流支援を深堀りしていきたいと思います。



オープンデーでお待ちしています! (左から伊藤、のぶたか先生、林)

にそのままディスプレイしています。モノストックの活動が営利目的でないからこそできる方法です。そのままの状態を見てもらい、その汚れをきれいにしたり不具合を直したりと、いろいろ手間をかけてでも使いたいという気持ちで持ち帰ってもらえると、そのモノがいい形で生き返る予感がします。

■オープンデー

倉庫を見てみたい方に個別に対応するのは難しいので、月に一度、町民・在勤者の皆さんに倉庫内のモノを見てもらえる「オープンデー」を開催しています。欲しいモノを見つけたら、自由に持ち帰ることができます。モノ一つ一つに値段をつけているわけではないので基本的に無料ですが、お持ち帰りの際に寄付をお願いしています。空き家片付けは平均して1ヵ月に1度くらい。なのでオープンデーも月に1度くらいがモノの入れ替わりがあり、楽しんでもらえると感じています。私たちが移住交流支援センター業務を鑑みて、今のペースが無理なく継続していくためにベストだと考えています。当初オープンデーに来られるのは移住者の方が多かったのですが、のぶたか先生（※）が地元の皆さんへ呼びかけてくださったり、町の広報誌「広報かみやま」でもオープンデーの告知を始めたことで、青井夫地区に加えて神山のいろんな地区の皆さんに足を運んでいただけるようになりました。最近では、周辺住民の皆さんが「毎月のオープンデーを楽しみにしてる。」と、活動の励みとなる言葉をかけてくださいます！



オープンと同時にドドっ...。

モノストックに並んでいる古い道具の使い方が分からない若い移住者の方が、地元のおっちゃん達に質問している光景をよく目にします。使い方やその当時の暮らしぶりを直接聞くことができるだけでなく、普段あまり話す機会がない方々と新たな交流が生まれるきっかけとなっています。また、のぶたか先生が、家に一人でいることが多かったお年寄りの皆さんを連れてきてくださるので、自然と高齢者サロンみたいになっている面白い一面もあります。

空き家片付けを喜んでくださるのは、主に空き家の所有者さんと入居者さんですが、このオープンデーによって、町民の方にも喜んでられます。私たちが空き家片付け業務のことを町民の皆さんに知ってもらうことで、「片付けてくれるなら空き家があるのが大きなメリットです。（※）のぶたか先生:モノストック倉庫のある青井夫地区在住。モノストック活動初期からボランティアで積極的に協力してくださっている。退職前は教師をされていたため通称「のぶたか先生」。駐車場調整や交通整理、地元の方への案内に加え、来場者への声掛けなどあらゆる面でサポートいただいている。